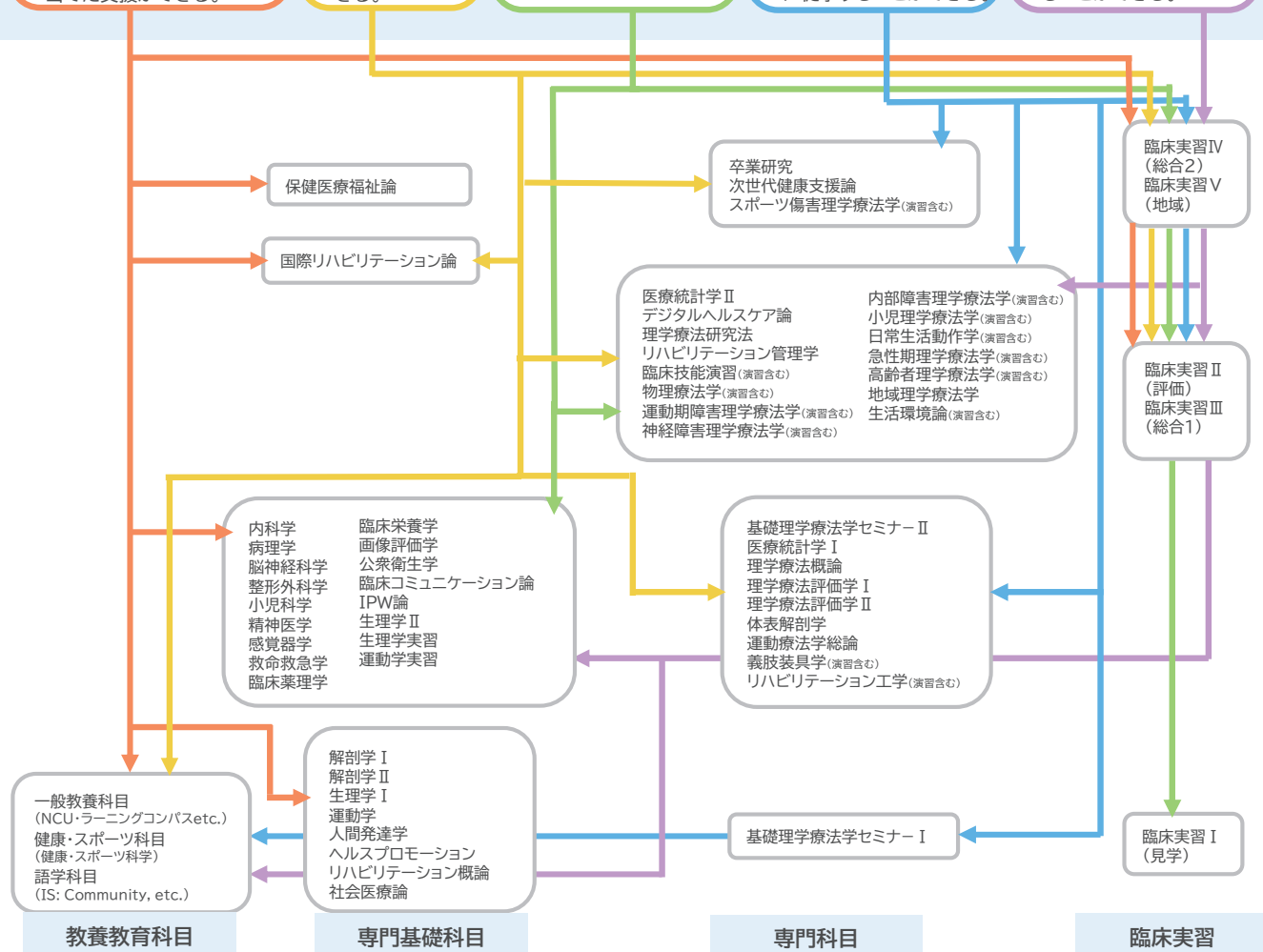


カリキュラム・マップ <理学療法学コース>

■ 5つのディプロマ・ポリシー <理学療法学コース>

- ① 理学療法士が備えるべき専門的知識・技術・態度を修得することで、患者および家族の生活の質の向上を目指し、身体機能の改善とそれに伴う動作の獲得に焦点を当てた支援ができる。
- ② 多職種連携で専門性を発揮し、地域生活における患者の主体的な生活を支援することができる。
- ③ 深い洞察力和コミュニケーション技能を修得することで、患者および家族と信頼関係を築き、人の尊厳と倫理観に基づいた支援ができる。
- ④ 論理的思考力と客観的判断力を修得することで、柔軟な発想で科学的探究に真摯に取り組み、理学療法の発展に寄与する活動や研究に主体的に従事することができる。
- ⑤ 地域・国際社会の動向を把握する能力、保健・医療・福祉の地域課題を探究する能力を修得することで、国際的な視野に基づく自己研鑽を継続することができる。



■ カリキュラム・ポリシー <理学療法学コース>

<課程編成>

1年次には、広い視野で思考する能力と豊かな人間性を育むことを目的に、語学などを講義形式中心に学修します。そして生命の尊厳や人間の尊厳について深く学びます。また、医学・薬学・看護学との合同演習授業を通して医療専門職に求められる基本的な態度と多職種連携について学修します。

2年次からは、専門教育科目が中心となり、各コースにおける「専門基礎科目」、専門分野の知識と技術を体系的・段階的に学修する「専門科目」、知識と技術を統合する「演習」、対象者・関係職種との関わりを通して医療専門職に必要な知識・技術・態度を実践的に学ぶ「実習」を編成します。

3・4年次には、専門科目に加えて研究に関する科目を開講し、指導教員の下で一連の研究過程を学修します。

<学修成果の評価方法>

入学時から卒業年次に向けて、リハビリテーションの専門性を高めるよう教育し、その学修成果はカリキュラムを構成する諸科目によって直接評価することで卒業生の質を担保します。具体的には、知識および技術に関する評価は、講義科目や演習科目の成績をもとに評価します。特に、必要とされる知識・技能・態度については、筆記試験、レポート課題、ポートフォリオ、共用試験（CBT、OSCE）などにより客観的な評価を実施します。

<実践>

授業の実践においては、少人数での講義・演習によるアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学修効率の向上を図ります。演習においては、シミュレーションや体験型演習を通じ、リハビリテーションの理論と技術を総合的に学修します。そして、臨床実習で様々な経験をすることで、学生の主体性と協調性、さらに内省する態度を育成します。

■ アドミッション・ポリシー <理学療法学コース>

<求める学生像>

理学療法に興味があり、地域社会や国際社会に貢献する意欲のある人
人の尊厳を尊重し、人や社会、文化の多様性を認め、他者と良好な関係を築くことができる人
知的探究心と柔軟な思考力を持ち、問題解決に向けて継続的に取り組むことができる人
主体的に他者と連携し、リーダーシップを発揮する意欲のある人

<修得しておくべき知識等の内容・水準>

論理的思考力と客観的判断力を備え、専門知識・技術・態度を学修していくため、文理の別のない幅広い基礎学力が必要です。自己研鑽を継続していくため、粘り強く物事に取り組むことができる力が求められます。医療専門職として多職種で患者および家族を支援していくため、他者との連携が必要な課題に誠実に取り組む協調性と行動力が求められます。患者および家族と信頼関係を築くため、他者を理解する意欲と倫理観を備えたコミュニケーション能力が求められます。

カリキュラム・マップ <作業療法学コース>

■ 5つのディプロマ・ポリシー <作業療法学コース>

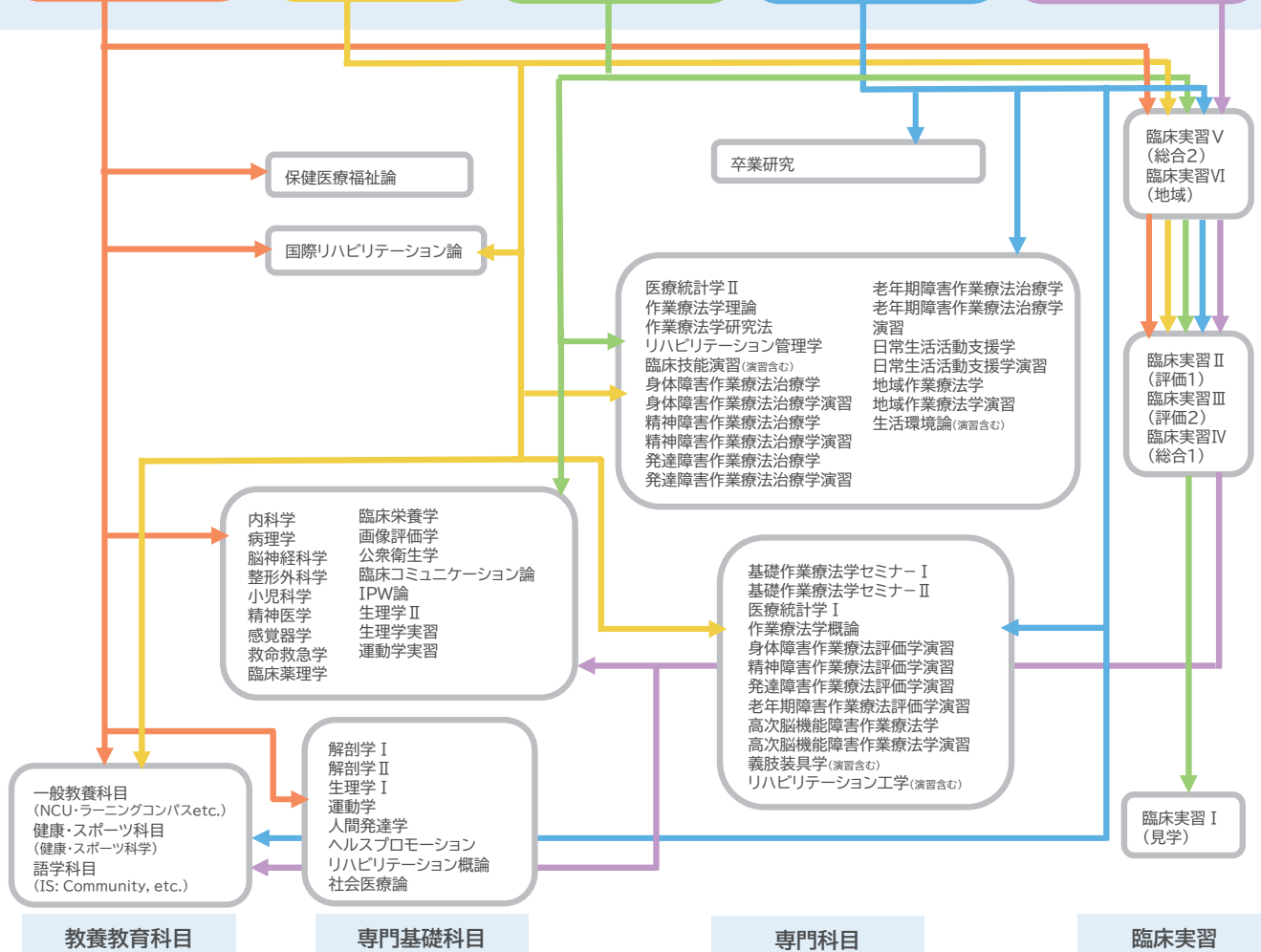
①作業療法士が備えるべき専門的知識・技術・態度を修得することで、患者および家族の生活の質の向上を目指し、作業に焦点を当てた支援ができる。

②多職種連携で専門性を発揮し、地域生活における患者の主体的な生活を支援することができる。

③深い洞察力和コミュニケーション技能を修得することで、患者および家族と信頼関係を築き、人の尊厳と倫理観に基づいた支援ができる。

④論理的思考力と客観的判断力を修得することで、柔軟な発想で科学的探究に真摯に取り組み、作業療法の発展に寄与する活動や研究に主体的に従事することができる。

⑤地域・国際社会の動向を把握する能力、保健・医療・福祉の地域課題を探究する能力を修得することで、国際的な視野に基づく自己研鑽を継続することができる。



■ カリキュラム・ポリシー <作業療法学コース>

<課程編成>

1年次には、広い視野で思考する能力と豊かな人間性を育むことを目的に、語学などを講義形式中心に学修します。そして生命の尊厳や人間の尊厳について深く学びます。また、医学・薬学・看護学との合同演習授業を通して医療専門職に求められる基本的な態度と多職種連携について学修します。

2年次からは、専門教育科目が中心となり、各コースにおける「専門基礎科目」、専門分野の知識と技術を体系的・段階的に学修する「専門科目」、知識と技術を統合する「演習」、対象者・関係職種との関わりを通して医療専門職に必要な知識・技術・態度を実践的に学ぶ「実習」を編成します。

3・4年次には、専門科目に加えて研究に関する科目を開講し、指導教員の下で一連の研究過程を学修します。

<学修成果の評価方法>

入学時から卒業年次に向けて、リハビリテーションの専門性を高めるよう教育し、その学修成果はカリキュラムを構成する諸科目によって直接評価することで卒業生の質を担保します。具体的には、知識および技術に関する評価は、講義科目や演習科目の成績をもとに評価します。特に、必要とされる知識・技能・態度については、筆記試験、レポート課題、ポートフォリオ、共用試験(CBT, OSCE)などにより客観的な評価を実施します。

<実践>

授業の実践においては、少人数での講義・演習によるアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学修効率の向上を図ります。演習においては、シミュレーションや体験型演習を通じ、リハビリテーションの理論と技術を総合的に学修します。そして、臨床実習で様々な経験をすることで、学生の主体性と協調性、さらに内省する態度を育成します。

■ アドミッション・ポリシー <作業療法学コース>

<求める学生像>

作業療法に興味があり、地域社会や国際社会に貢献する意欲のある人の尊厳を尊重し、人や社会、文化の多様性を認め、他者と良好な関係を築くことができる人 知的探究心と柔軟な思考力を持ち、問題解決に向けて継続的に取り組むことができる人 主体的に他者と連携し、リーダーシップを発揮する意欲のある人

<修得しておくべき知識等の内容・水準>

論理的思考力と客観的判断力を備え、専門知識・技術・態度を学修していくため、文理の別のない幅広い基礎学力が必要です。自己研鑽を継続していくため、粘り強く物事に取り組むことができる力が求められます。医療専門職として多職種で患者および家族を支援していくため、他者との連携が必要な課題に誠実に取り組む協調性と行動力が求められます。患者および家族と信頼関係を築くため、他者を理解する意欲と倫理観を備えたコミュニケーション能力が求められます。